

保育界

2015
11



発行 日本保育協会

蜂宿（はちやど）

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

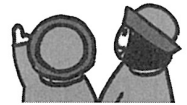
自然との触れ合いは、思いやる心、命やものを大切にする心を育みます。

こうした“自然の保育力”を活かすためには、園児が普段生活する範囲内に自然と触れ合う空間を設ける必要があります。ここでは園庭ビオトープの施工や管理活用のノウハウをご紹介します。



北本自然観察公園（埼玉県）内に設置された蜂宿に園児は興味津々。この公園には自然学習指導員が配置され、様々なプログラムを提供。県内の多くの保育所が保育者研修や園児の自然体験の場として利用している

『蜂を通じて自然の営みを体感』



自然界の営みを園児に実感させたいと、ドイツの保育所が積極的に園庭に設置したのが「蜂宿」でした。この蜂宿を利用する蜂は、主にドロバチやハキリバチの仲間です。日本にも生息しています。これらの蜂は、人に攻撃を仕掛けてくることはありません。蜂宿は、蜂にとってはゆりかごです。親蜂は、やがて生まれてくる子どものために、その食べものとなる青虫や葉っぱを何度も往復をしながら巣穴の中に運び込みます。そして卵を産むと、巣穴の入口を泥でふさぎます。入口に泥が詰められていることが利用している証しになります。

蜂宿は、篠竹など細めの竹を集めて束ねれば完成です。その他、紙粘土に鉛筆やマジックなどを使って、大小様々な穴を深めに開けてもよいでしょう。雨が当たらない場所に設置することが望ましいようです。蜂も自然の大切な一員です。蜂だからと嫌わずに、我が子のために一生懸命に働く親蜂の姿を、園児と見守ってみてはいかがでしょうか。

■日本保育協会ほか後援『ドイツ・自然とのふれあいを大切にする園づくりツアー2015』の実施レポートを日本生態系協会のホームページに掲載しました。

ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州における、地域の自然を積極的に取り入れた保育環境の実践例を紹介しています。今後の自然を活かした保育環境づくりにお役立てください。その他、次年度のツアーについては協会事務局（TEL 03-5951-0244）までお問い合わせください。